

## 主な記事

蚕糸業における今後の主な研究課題	1
インド蚕糸業指導報告	2
倉沢文夫氏の学位論文	4
蒲生・倉沢両先生退官記念品贈呈式	5
会員近況	6

## 千曲会報

昭和34年9月1日発行

長野県上田市常入  
信州大学繊維学部内  
編集兼発行人 小山長雄  
信州大学繊維学部内  
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

振替口座 長野 6243  
東京 43341

## 蚕糸業における今後の主な研究課題

林 貞 三

表記の題目に関し目下農林省内農林水産技術会議，蚕糸委員に於て審議中である。

本稿は未定稿であり審議の中途のものであるが御参考のため且つは御意見を承り度いと思つて登載した次第である。

## I 基本方針（研究の分野及び主な目標）

蚕糸においては，養蚕経営を安定し，生糸絹織物の用途を拡大し需要の増進をはかることが緊要であり，これがため労働生産性向上を主眼とする養蚕技術の改善，繭糸価格の低減を目的とする技術体系の確立並びに製糸及び生糸加工技術の改善等に関する研究を推進すると共に総合的の一貫性を持せる必要がある

II 蚕糸における主な研究課題  
1 養蚕  
1-1 土壤の改良及び施肥法の改善に関する研究

桑園能率を高め繭生産費を低減するため，土性に適した施肥方法，有機質利用，草生栽培による土壤改良等の研究を行うことが必要である。

## 1-2 桑品種の育成に関する研究

従来の桑品種は，その地域適応性，耐病性において不十分の点があるので早ばつ地，低温地，高冷地等異なる環境にそれぞれ適応し，かつ耐病性のすぐれた品種の育成を行うことが必要である。

## 1-3 桑栽培法に関する研究

土壤類型，気候条件等の立地条件を考慮し労力を節減しうる栽培法確立の研究を行うことが必要である。

## 1-4 桑病虫害の防除に関する研究

萎縮病，紋羽病，芽枯病，裏白病，赤渋病等の防除について，蚕に対する農薬または防除用微生物の影響を考慮して対策を確立する研究が必要である。

## 1-5 桑の凍霜害予防に関する研究

実用的予防法及び被害後の対策の確立について研究し，経

営の安定をはかる必要がある。

## 1-6 強健性蚕品種の育成に関する研究

従来蚕品種の改良は，繭糸の質，量の改善に主目標をおき効果を収めてきたが，今後は飼育の簡易化をはかるため一層作柄の安定が得られるよう環境に対する適応症と耐病性の強い品種の育成を行うことが必要である。

## 1-7 軟化病の防除に関する研究

蚕作を安定し繭生産費を低減するためには年々蚕病による蚕減産の約60%を占める軟化病の防除が重要である。このためには桑葉々質に關与する各種要因の分析，葉質改善及び飼育条件の改良並びに蚕品種の選定蚕種の取扱等に関する研究がなされるべきである。

## 1-8 飼育技術の改善に関する研究

養蚕技術は蚕種改良を支柱として土地生産性の向上において効果を取めてきたが，現在の養蚕は余りに労力集約的であるので今後は労力節約的技術を確立するための研究が必要である。（蚕具の改良等も含む）

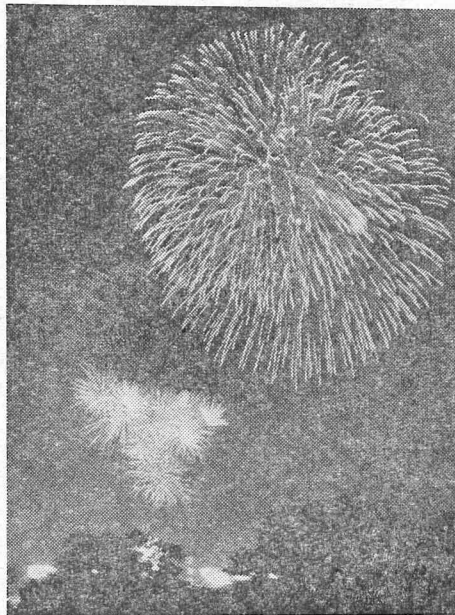
## 1-9 上簇法の改善に関する研究

養蚕における所要労力量は上簇期において急峻な峰を示すので，上簇法を改良してこの労力の峰を崩し，また製糸原料として適質の繭生産を

計るため上簇法改善に関する研究を行う必要がある。

## 1-10 経営改善に関する研究

養蚕経営において，養蚕労働は他の農作業との競合が強化し，労働配分の適正化を妨げており，また土地利用面においては，なお改善の余地多く，これ等は作柄の安定と繭生産費の低減を困難ならしめている。従つてこのような経営発展の阻害要因を解消するため先ず効果的な個別養蚕技術を，総合体系化して養蚕農家の営農条件に適応させる研究が必要であ



納涼花火 新保義一（信大光画クラブ）

る。

2 製 糸

2-1 繭解舒の改善については今日まで蚕品種の改良により著しく改善されたが、製糸技術によつても繭解舒の難点をできる限り改善する研究が必要である。

2-2 製糸技術の能率化に関する研究

製糸工程の高能率化、生糸品質の改善をはかり生産費の低減に資するため製糸機械の改良並びに品質管理の研究を行うことが必要である。

2-3 束装に関する研究

生糸の需要増進をはかるために、機織業者の機械設備の現状に照して、機織の準備工程を簡略なスモールスケイン・ケーキ巻・コーン巻等の新しい束装方式の研究を行う必要がある。

2-4 生糸特性解明の研究

編織物の用途に適した生糸の効果的生産をはかるため、各種生糸の品質の表示方法と各種編織物の必要とする生糸のそれぞれの性質との関係を解明する研究を行うことが必要である。

3 加 工

3-1 新しい形態の絹原糸の研究

生糸の形態は14デニール・21デニールの従来のままのものが多く用いられているが、近年合成繊維の発展において同じ素材フィラメントでも、その形態の改善によつて安定した用途が見出されていることをみると、絹原糸においても製糸および関連工程においてバルク化・クリンプ化・ループ化等をはかるとか、無抱合糸、短繊維等の新しい形態の原糸製造とその適用の研究を推進する必要がある。

3-2 生糸の用途別の一貫的生産技術の研究

2-4項に関連するが、生糸の品質改善をあらゆる用途の織物に適合するよう、普遍的に行うことには、特に生産費の低減を必要とする場合は無駄が多いと思われる。

生糸はその用途により必要な条件を満たせばよく、蚕品種・立地条件・製糸方法等一貫した能率的用途別生産方式の研究を行う必要がある。

3-3 絹の加工方法の研究

一般繊維の加工技術の進歩にかんがみ製繭織、精練、スズ加工等化学処理、他繊維との混紡交織、染色等において新しい加工技術を開拓する為の研究又生糸の用途によっては欠点となるラウジネス、黄褐変および染戻等の改善方法を原料面及び加工面から研究することが必要である。

(農林水産技術会議蚕糸委員)

インドの蚕糸業報告 〔III〕

ジャム・カシミール州の概要 (I)

唐 沢 正 平

ジャム、カシミール州は北緯32度3分から37度に跨るインド極北の地帯で、南部ジャム地方の一部平坦地に近い地帯、(熱帯的な気象)を除いて大部分はヒマラヤ山系の山中に属している。

ジャム州のパニハール地方およびカシミール州では、桑は3~4月に発芽し、10~11月には全部落葉し冬期1~2月には積雪1~2呎から5~6呎という地帯で、ちょうど長野県のような気象状態である。

したがって養蚕はインドにおける唯一の一化性飼育地帯として古来有名であり、養蚕の歴史もかなり古いと思われるが現在までに入手し得た文献ではその詳細はわかっていない。

ジャム地方の指導は、専ら蚕糸業の重要地点を指導することとし、ジャム、12日間、ウダンプール、ランバン各1日、パトウ2日、パニハールに17日間滞在した。またカシミール州では首都スリナガルに32日間滞在したが両地方とも製糸工場、桑苗育成所、蚕種製造所、養蚕所ならびに附近養蚕家を实地視察しながら指導に当り、さらにフィルム映写によって日本蚕糸業の現況を紹介した。

この州の蚕糸業の特色は桑樹、蚕種、繭および生糸の生産を一切州政府が統制管理していることである。すなわち次のようになっている。

- (1) 桑苗は政府が育成して各地に植付け、その桑樹の伐採等は養蚕家の自由には出来ない。
- (2) 蚕種の製造および配付も政府において行い蚕種は無償

で養蚕家に供給されるが、養蚕家の希望品種を掃立てることは出来ない。

- (3) 繭は良繭も不良繭も一切政府が1マウンド(10貫目)65ルピーの均一値段で買取る。
- (4) 生糸の製造はジャムおよびスリナガルにある政府経営の2つの機械製糸工場で行われ、生糸は政府の専売である。
- (5) 州の面積および人口等は1948年の独立に際しパキスタンとの分割で詳細不明であるが、1885年のセンサスによれば別表の通りである。

しかし現在は、パキスタン問題で州内至るところに軍隊が駐在しており、その後の人口増加で更に人口密度が高くなっていると推定される。

現在生糸生産額は、年産(1956)169,032ポンドで、ジャム州、27,385ポンド、カシミール州141,647ポンドとなっている。

ここで注意すべきことは宗教と養蚕の関係で、ジャム州にはヒンズー教徒が多く、カシミール州には回教信者が多い。ヒンズーは不殺の教義から養蚕して繭を殺すことを嫌い。回教は割合に進歩的でスリナガル工場に繭を運び込む養蚕家の中300人中1人~2人がヒンズーといわれ、ほとんどが回教信者であることが一つの特色である。

カシミール州は独立に際しインドと西パキスタンとに2分された地帯で、今なお毎日の新聞にカシミール問題が両国間

にやかましく論ぜられている。独立前は97%が回教信者で、現在もなお75~80%が回教信者と見られ、これがジャム、カシミール州産繭額の差異の一因だというのが州内識者の意見である。

総て産業に関する政府の統制は、戦時または非常時にやむを得ず行わなければならないもので、私共が戦争中に経験したごとく、統制によっては多くの場合産業の改善進歩は阻害されがちなものである。したがって政府統制の際は、その指導者が常に自己反省し、進取的で勤勉な研究心に富んだ人が不断に創意工夫する必要がある。一度統制に馴れると官吏は毎日の仕事を唯習慣的に遂行するのみとなり、事業の進歩改善の研究心が抹殺されてしまう。また産業に従事する民衆は良い繭も悪い繭も10貫65ルピーの同一値段で買われるので自己の創意工夫の余地が無く改善の意欲が全然なくなる。政府の統制はその事業の改善および発展の責任が一切政府当局に帰せられる結果となり、官吏の責任が非常に重大となってくる。

インドにおける唯一の一化性飼育地帯であり、また蚕糸業の政府統制で世界的に有名な本州の蚕糸業がいかに発展しているかと私は非常な関心をもって来たが、実際に現地を視察し、現状を奥深く探査してこの統制の弊が随所に発見されるのを見ていろいろ考えさせられた。

次に桑、蚕種製造、配布および検査、養蚕飼育、上簇、繭の供出、乾繭、製糸などの現状ならびに各項にわたって指導し、改善を要求した諸点をあげてみよう。

(2) 蚕糸業の現状および指導概要

1 桑樹栽培

本州では桑苗を政府の桑苗育成所で接木した後三年間、結局四年間育成して大体桑苗の太さ直径5~6分。高さ5~6尺に育てたものを政府の土地、原野、道路側に、河の堤塘、河床等に植える。点々と植えるものもあり、場所により7~15呎など、等距離間隔に植えたり、また個人の土地に植えるものはその個人に管理させ、植付けた年に1本1.5ルピー爾後三カ年毎年0.5ルピーの管理助成金を支給する。然し桑樹は全部政府のものであるから、枝の伐採も葉をとることも自由にはならず一々政府の許可を得ねばならない。

政府が植えた桑樹本数はカシミール州1886年からまたジャム州1891年からの記録があるが、1958年までに前者4,658,142本、後者、658,097本、合計5,316,239本が72年間に植えられた勘定になる。これらの桑の古木は高さ数丈におよび幹は目通り直径2~3尺に達し、地方によっては120年の古木と称して、目通り直径5尺に達し、樹高数丈、なお青々と葉の繁茂している実状であり、また最近三カ年平均植付本数はカシミール州年12万本、ジャム州毎年5万本といわれるので、現在桑樹350万本といわれる説も根拠の無い訳ではない。

桑樹は自然に成長するに任せ剪定することなく、養蚕家が必要とする際に政府の許可を得て樹に登り、大斧で枝を叩き落すのみだから年々大木となり成長を自然に任せである。肥料するでもないが、一年1回のみの取葉だから割合に樹は長寿である。然し取葉は小さく、取葉量は少い。養蚕家は取葉には高木に登る危険があり、従って取葉労力は多く要ることとなっている。

高木とする一つの理由は、人間の数よりも多いと思われる牛、山羊、羊、馬等の家畜が自由に桑葉を喰うことを防ぐ目的もあるといわれる。然しそれは自ら限度がある筈で3~4丈の高さとする必要はない。

桑の品種は主として土種が植付けられているが、官庁機関の桑園には最近数年来、日本種改良風速、一の瀬、国桑、甲撰等の植付も見られ、またイタリア種も桑苗育成所に立派に育成している。当局はこれら外国の品種もポツポツ奨励する

計画をしている。

2 蚕種製造と配布

蚕種は政府の蚕種製造所で製造、検査、保護して催青直前に養蚕家に配布し、養蚕家で催青される。農家によっては共同催青しているものも少しは見られる。

蚕品種は、全部一化性の純粋種で欧州種白繭、黄繭、支那種白繭、金黃種、日本種白繭などがある。日本種は一代交雑種を輸入した後復製されたので、混血されているが、欧州種および支那種は主に伊・仏から輸入されたもので、殆ど純粋種で繭層歩合13~15%のものが多く、35~6年前の日本の実状に似ている。従来蚕種は伊・仏から(主に仏から)輸入されていたが、1955年以来日本からも年々輸入され、繭層歩合も20%内外を示し、断然他を圧している。政府製造のものも伊・仏から輸入されるものは交雑種と称しながら純粋種と見えるものが多いので蚕作は良くないが、日本からの輸入蚕種は一代交雑種だから蚕作が安定していて良好である。しかし養蚕家は蚕種の選択の自由が無い。ただ官庁の都合であてがわれる蚕種を掃かねばならぬ。

ジャム地方には欧州種白繭バグダットが多く、カシミール地方には支那種金黃が多い。両地それぞれの気象に適しているといわれる。

3 蚕種製造

種繭は製糸工場に持ち込まれた糸繭の中から良繭を選び蛹を顕微鏡検査して無毒のものを選び蚕種製造所に運ばれ種繭として保護される。

種繭保護は大部分はイタリア式のコル箱(幅2.5呎×長4呎×厚3吋)に詰めて天井から吊すか、また平面のコル箱に3~4粒重ね位にならべて保護し、朝から発蛾するのを待って雌雄蛾を拾い別けている。しかし雌雄蛾を拾い別けているのは交雑種製造の目的では無く、純粋種の交尾時間を3~4時間に一定するためである。

蛹体で雌雄鑑別しているのを見たが、これは全製造蚕種の1%にも満たぬ欧州種黄繭と支那金黃との交雑用だった。3~4時間の交尾を終れば割愛して母蛾は直に産卵袋に入れる袋はほとんど木綿袋で(2吋×3吋)の小袋を用い一部はパラフィン紙袋で小孔を点々あけた小袋に入れる。小袋は木綿糸で縛りとして天井から吊し、または五百袋宛ならば小枠に挿し込まれて蚕種保護室に保護される。

かくて一カ月後には全部の小袋の母蛾が鏡検される。蚕卵はそのまま十月中旬まで保護室に置かれ、後洗い落され、更に秤量して32瓦1箱(1オンス)または半オンスの小箱に入れて保護し、11月下旬から十二月に越冬室と称する階下の涼しい室に移され、2月~3月頃までここで保護される。越冬室は階下と自然の気温で12月~2月間は低温であるが、3月初めから漸次升温するので、蚕種の発生不良等の因をなしている。これを防止するため、完備した冷蔵庫を建設する計画が進められ、スリナガルには既にその材料コルクや機械がポルトガルおよびデンマークから輸入され着荷しているが建設は何日だか判らぬという。ジャムはヒマジャヤ山中のバトウに越冬室があるが、これまた雪と氷を利用した不完全なもので冷蔵庫の建設を考慮中である。現在越冬中の蚕種保護が不完全のために蚕種の中5%は不発生になるといわれている。

蚕種の製造数量は大体ジャム、カシミール両州ともに自給自足を目標としている。しかし最近三カ年平均のスリナガルの実状を見ると、

蚕種製造数量36,278オンス、中掃立られた蚕種24,644オンス、残蚕種11,634オンス(製造数量の32%)  
外に輸入して掃立てた蚕種13,139オンスとなっている。

地域別の面積および人口密度

地域別	ジャム地方	カシミール地方	辺境地区	計
面積(平方哩)	12,378	8,539	63,554	84,471
人口密度(平方哩当り)	160人	202人	5人	

(アジア協会蚕糸業委員会幹事長)

## 倉沢文夫氏の学位論文と

### 新潟日報文化賞受賞のこと

新潟大学農学部教授倉沢文夫氏(昭和7年上田蚕専卒同12年台北大卒)はかねて、北海道大学農学部で論文提出中の所昨年12月4日、同大学教授会を目度く通過し、栄ある農学博士の学位を獲得せられた。尚さかのぼって11月3日文化の日、新潟日報社より、新潟日報文化賞(年1回3人位受賞)を受賞され同大学の為に大いに気焔を吐いたといわれる。尚文化賞は協同研究社講師、伊賀上郁夫氏と連名受賞である。同氏の長年のたゆまざる学的御精進が茲に報いられたわけで誠に慶賀と敬服に堪えない次第である。次に同氏の学位論文と文化賞受賞論文の要旨を記して祝意を表したい。



#### 学位論文

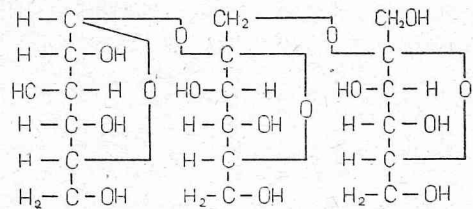
論題：糸状菌のフラクトシダーゼ並びにその作用によって生ずる新寡糖類に関する研究。

内容：日本では酒、味噌醤油等糸状菌を用いる食品が非常に多い。よって糸状菌による糖(特に蔗糖)代謝の研究は純学問的にも、応用見地からも非常に重要である。従来は糸状菌のフラクトシダーゼによって蔗糖は葡萄糖と果糖に分解されると考えられている。著者は蔗糖代謝の第一階梯としてこのフラクトシダーゼの研究を意図した。このため糖類のペーパークロマトグラフィーについて研究した。而して従来より分離のよい展開剤と感度の高い呈色剤を見出し、且つ消失限界法を用いることによって微量の糖を分離定量することができることを認めた。

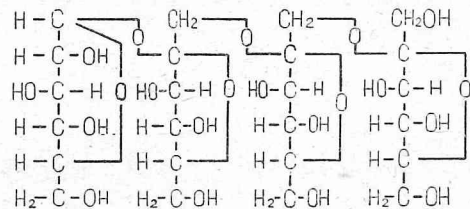
蔗糖を炭素源として糸状菌を培養し、培養液をペーパークロマトグラフィーにかけたのに蔗糖から寡糖が生成されており、且つ寡糖の生成は酵素作用であることを認めて1952(7月)日本酵素化学シンポジウムに於て発表した。米国に於てはバズールは1952(12月)に糸状菌において寡糖から蔗糖類が生成されることを認め、この酵素をトランスフラクトシダーゼとした。

一方英国のペーコン等は蔗糖から寡糖を作るのは、従来認められているフラクトシダーゼの作用であることを認めた。著者は更に実験を進めて糸状菌の培養菌体からは蔗糖から寡糖を作る酵素を得、一方米麹からは蔗糖を葡萄糖と果糖に分解する酵素を得た。両者共に蔗糖を分解するのは同様であるが前者の場合には分解して生じた果糖を蔗糖に結合させ、後者は分解して生じた果糖を水に結合させると考え、両酵素作用は基質は同一であるが受納体が異なるため前者にはフラクトシダーゼ(S)、後者をフラクトシダーゼ(h)と命名して1954に発表した。一方蔗糖から生成される寡糖については著者は、寡糖 No.1 寡糖 No.2 と名付け、その性質を1952に発表した。所が英国のペーコン並びにパーカー等は1953, 1954に寡糖 No.1 に相当する部分を抽出し、メチル化糖を作り、それより構造を決定した。著者は寡糖 No.1, No.2 について実験を進め両者を単離することに成功し、それ等の

性質を明らかにし、更にメチル化糖を作り構造を決定した。そして寡糖 No.1をイソケトーズ、寡糖 No.2, をファンジーテトラオースと命名した。それ等の構造は次の通りである。



イソケトース



ファンジーテトラオース

すなわち蔗糖にフラクトシダーゼ(h)を作用させると蔗糖は葡萄糖と果糖に分解され、蔗糖にフラクトシダーゼ(S)を作用させると蔗糖はイソケトーズ、ファンジーテトラオース等の寡糖になり更に葡萄糖と果糖に分解される。

#### 新潟日報文化賞

受賞論文の概要：米は増産を計ると同時に米質をよくしなければならぬ。新潟米はもともとまいといわれているがその特質を生かすことが重要である。飯米には粘りがあるおいしいものと、粘りがなくバサバサしてまずいものがあり、米の粘りはその主成分であるデンプンの性質で大きく左右されるものではないかということが当然考えられる。そこで昭和30年3月からこの研究に着手した。

まず原産米の食味調査を行い、その結果、粘りがあったりまい米は農林1号、越路早生、農林21号、同36号、コシヒカリ等で、粘りがなくまずいものは北陸52号、山陰52号、短銀陸稲農林21号等であることを知った。この両群について搗精試験を行ったのに前者は短時間で搗精ができ、ぬかの量も少なかったが、後者は時間が長くなり、ぬかの量も多かった。また炊飯試験では前者がカム増え(釜増)の割合が少なく、後者は多かった。

次に両者のデンプン以外の一般成分(タン白質、脂肪など)を分析したところ、相違を見出しえなかったが、白米の約90%を占めているデンプンを夫々抽出して性質を研究した結果次のような違いのあることがわかった。

食味のよい米からのデンプンは



(1)粒子の大きさが比較的揃っており小形の粒子が少ない。  
(2)粘度計でデンプンが糊になる温度を見ると、60°C内外で比較的高い。(3)吸湿性は比較的小さい。(4)デンプン中のアミロースの含量は20%内外であった。

食味のよくない米からのデンプンは(1)小形の粒子のデンプンが多く交っていた。(2)糊になる温度は55~57°Cでやや低い(3)吸湿性は前者に比べてやや大きい。(4)アミロースの含量は5%内外であった。

以上の実験から次のことが考えられる。すなわち、味のよい米がカマぶえの割合が少ないのは、その米の吸湿性が少ないためと思われる。又食味のよい米のデンプンは粒子が比較的そろっていたが、不定形の小形の粒子のデンプンは熱やアルカリなどに抵抗性が弱い。故に糊になる温度は味のよい米は高く、味のわるい米は低いと思われる。デンプンには普通20%位のアミロースと80%位のアミロペクチンが含まれている。アミロースはブドウ糖が一直線に長く結合した形で、温水中に溶けやすく、また溶けたものが沈でんしやすい成分であり、アミロペクチンはアミロースに、ブドウ糖重合物(連なったもの)の枝がついた形になっている。アミロペクチンの

粘度はアミロースの粘度より大きく、溶液は溶けたものは沈澱しない。ところで食味のわるい米はアミロースの含量が大きい。そのため加熱して糊のようにするとアミロースは溶けて出、溶けたものが沈でんするため、飯米は粘りがなく、パサパサになると思われる。

次に登熟中のモミ中にアミロース、アミロペクチンを合成する酵素の存在が考えられる。そして著者等はアミロースを作る酵素フォスホオリラーゼを沈でん状に得ることに成功しアミロペクチンを作る酵素Q酵素の存在を推定した。これ等2種の酵素は米のデンプンを合成する酵素だから米の食味とは重要な関係があるものと考えられる。

さてこの研究は、実用上どんな効果をもたらしたか？まず米の食味調査で粘りがあってうまい米と粘りがなくてまずい米とに分けることができた。そして両者の間にはデンプンの性質が異なっていることが認められた。よって米の中のアミロースの含量を計ることにより米質の良否が判定できることになる。今後は更に稲の栽培条件を改善してデンプン合成酵素の作用を高めて、増産と同時に食味のよい米を産出することができるだろうと期待される。(S・Y記)

## 蒲生・倉沢両先生退官記念品贈呈式

昨年3月停年御退官された蒲生俊興、倉沢美德両先生に記念品を贈呈しようとの計画が例によって立てられ、林学部長、八木教授、田口養蚕学科主任の三氏が発起人代表となり、広く同窓の中で比較的両先生に縁故の深い諸氏が発起人となり、両先生退官記念会が設けられたのが昨年6月であった。

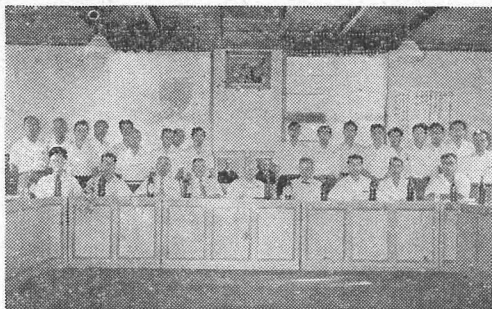
そしてこの会報33年7月号を通じて卒業生各位に記念品贈呈資金

の募集にかかって凡そ1年、別掲の如く募金がまとまったので著越ではあったが学内の発起人でその贈呈方法を協議した結果、前例にならって肖像写真の外には両先生の御意向を伺うことになった。蒲生先生は来年スペインにある国際絹業大会に出席する旅費に当てたいとの御意向であり、倉沢先生は後日記念の品を選定して米久に保存したいとの御意向であり結局写真の外は金子で贈呈することになった。

早速写真は郷土の国際的写真家柴崎高陽氏に依頼した。出来上ったのは全紙版より少々小さく実物大より僅かに小さい胸像写真で額ぶちは巾広のクリーム色で、夫々両先生の温容御性格を表はした立派なものである。

斯くてこの記念品は発起人会で贈呈するわけであるが約150名からの発起人全員に御参集願うのもどうかと考えられ母校内全員と上田、長野、東京等1部の発起人に御通知し8月10日午後2時に母校会議室で贈呈の式が行はれた。式に先立って発起人会が開かれ、この行事の経過と募金の結果および贈呈の方法について報告され併せて承認が求められた。

式は発起人代表の林学部長の挨拶に始まり、続いて同氏の手から記念品が拍手の中に両先生に贈呈された。両先生から



は在職中の思い出や今後の御抱負等を交えた鄭重な謝辞があった次いで八木発起人代表、野口千曲会理事長、猪坂直一氏等の祝辞があって茶菓の懇談に入った。その間に準備が進められ同会場で有志によるビーヤパーティが開かれ両先生の栄誉と御健康を祝福して乾杯した。

両先生は御在職当時とちっとも御変りなく停年とは思われない御

元気で参会者と久方振りの会話を交され感慨深げであった。

最後に竹内善吾氏の発唱で両先生に万才が三唱され、両先生もまた母校職員並に発起人を始めとする千曲会員各位に呉々も宜しくとの意を込めた万才を三唱してパーティを閉じた。御贈りした肖像写真の複製は両先生が御在職中に居られた部屋に飾られ永く師徳をしのぶことができることを追記して贈呈式の模様とします。

なを決算を下記のとおり御報告申し上げますとともに、発起人並に醸出者各位の御協力に対し深く感謝申し上げます。

### 決 算 書

蒲生俊興先生		倉沢美德先生	
収 入	176,950円	収 入	171,350円
(296人)		(287人)	
支 出	8,950円	支 出	8,950円
内訳	写真二面代5,500円	内訳	写真二面代5,500円
	通信事務費2,650円		通信事務費2,650円
	贈呈式費用 800円		贈呈式費用 800円
差引	168,000円	差引	162,400円

(町田記)

# Seiryu Kuma SALON

尊敬する人物

三 石 賢

入社試験などで学生がもっとも当惑することの一つは「尊敬する人物」をあげよとか、どうしてか、ということであるらしい。会社としては受験生の性格をしろための一つの手段でもあろうが、受験生には至極迷惑らしい。

戦後、あらゆる権威に対して懐疑的になった若い世代（私もその一人であるが）の一つの大きな特徴は、自分の尊敬しうる対象が存在しなくなったということではあるまいか。教師を慕って大学に入ったという話も余りきかない、教師を慕って、自分の道を決定するにはあまりにもミミツイ世の中だからでもあろう。いったい尊敬とか崇拝とかいう言葉のもっている意味のわからない理由の一つは、恋愛とか友情だとかいうわれわれが日常生活において、しばしば体験する感情ほど一般的でないことがあげられる。

言葉の定義よりは、自分で体験してみてはじめてわかることがらだからである。

私もいぜん、あるところの入社試験で「尊敬する人物」という項目を見出して一体自分がそのような気持をいだいている対象があるのかと反省したことがあった。どんな人物の名前をかき入れたかおぼえていないところを見ると、まったく書きこまなかったか、でたらめな人の名を書いたにちがいない。

私たちの学生時代（昭23～26）と現在の学生のもの感じ方、考え方などは非常に差がある。まして、戦前に学生生活を送った人達との差は一層大きい。よくいえば合理的になって来ており、悪くいえば、エゴイスタックになって来ている。いずれもアメリカ的な実用主義の傾向にあるのではあるまいか。

私たちの時代は、まだまだ古いしきたりや、古い考えにしばられていた。自分の内面的な成長とか、教養とかについて真剣に考えていたのは当時流行していたいろいろの哲学の影響も一つの原因であ

ったかもしれない。

読書なども、どちらかといえば、古いものの焼きなおしが多くでていて、新しいものに乏しかった。

オールドリベラリストなどともてはやされていた人達の著作などは現在の学生には殆んどかえりみられていないだろうが、今後、ますますその傾向は強くなるであろう。

われわれはよく針塚先生の話をきかされ、先生を尊敬しておられる諸先輩の話をきく。しかし先生の存在は、諸先輩とわれわれとに対しては同一ではない。

学生達の話をきいていると尊敬する人物として、シュバイツェル、ベートーヴェン、トルストイ、マルクス、あるいは野口英世などの三根山などとあげている。それにはそれ相当の理由があるだろうが直接、自分で接触した人間でなくて、自伝や伝記、著作やいわゆるマス・コミなどから、各人各様に人間像をつくりあげているのである。

ある小説に、大学教授の著作にひかれて入学して来た大学生が、女給と接吻している教授をみて失望している場面がある。

自伝や、伝記、著作によったり、はなはだしい場合は、マス・コミによって作られた人間像をそのまま偶像化してしまうことは大いに警戒しなくてはならない。私はふだん学生と一緒に生活している（研究室では）新しい学生でも1月もすれば、殆んど性格がわかり、感情の動きすらわかってくる。私はしばしば、学生たちから学ぶことがいかに多いかを感じる。学生達との年齢がはなればはなれるほど、私達の世代のもっていないものをもっている学生があらわれてくるように感じる。

ある雑誌に、小学校低学年の教師が自分の生徒達から学ぶことの多いことについて書いている。また、私の最も親しい友人の一人は、満1才そこそこの自分の子供をみていると、自覚のなかつた悪癖が、非常によくわかるとこぼしている。

フランクな気持で接触していると、必ず学ぶものがあるのではあるまいか。

まして大学生も4年になれば、演劇、音楽、文学、その他の彼等の専門外のことにも相当の深い造詣をもつくる。

そして、各人それぞれに捨てがたい味（これが個性というものかもしれない）がでてくる。

人間を評価するには、直接の交渉をもったのちに判断することが必要である。

人を尊敬するには、マス・コミによって宣伝され、つくりあげられた人間像を偶像化してしまつてはならないと思う。

(34. 7. 28)

## 会員の近状

◎大正13年卒業同郷生会の記

◎昭和34年6月30日東京都水道局勤務田角又十郎君の世話で、杉並区代田橋、水道局松原寮で同期生会を開いた。大正13年というと養蚕、製糸は11回、紡績は3回である。36年振りの会合という人々が多く、長い間御互に頭の中に画いていた友達の境遇を現実の問題として御互に話し合った次第である。

養蚕科 清水衛敏 田角又十郎

製糸科 合田信一 牧野 弘

石原六朗 青木 友弥

紡績科 浜 香三 宮本 静雄

◎此の会合を開くに至つたのは浜香三君が昨年末東京に住みつく様になつたので、歓迎を兼ねて一つ集まって見ようではないかというのがはじまりである。浜君は仲々話題が多い男で、こんな会合を作るには良きにつけ、悪しきにつけ、中心的人物になり得る人で後にも書くが之が縁で一つの楽しみが増えた事になった。

◎集まつた者の外に大正13年期生で、東京近在に住んで居るのは、碓氷茂君、小山清君、中津信一郎君、塩田健介君其の他で、筆者が知らない方々もたくさんあるが、何分突然の事ではあり、皆さんの御手元まで案内出来なかつたのが残念でしたが御勘弁を願いたい。

◎13期生の学生生活時代の出来事で何か頭に残るものがあるか考えて見た処、問題は2つあった。

其の一つは甚だ香しくないが秋期運動会で審判問題に関する石倉先生事件であり、他の一つは12年秋道場の後の林の中に建立した蚕霊供養塔である。前者は多少の行過ぎがあつたにしても純真な学生の行動として、蚕霊を祭る菩提心の発露に免じて寛恕ありたいものである。

尚蚕霊供養塔の開眼法要に當つては、最近時々新聞のニュースに出る半田孝海先生の法話が思い出される。先生の御健在を切に御祈り申し上げる次第で

あります。

◎其の他修己寮の寮生活や、個人の生活を通じて、例へば級が異っても交渉があったわけで、之等を話の種に甚だ愉快な一夕を過した次第である。其の中で一つだけ珍芸を紹介すると、それは清水術敏の「茲はお国を何百里、離れて遠き満洲の……」の歌曲に合わせておどる舞(?)である。彼は満洲国北票の炭山に住み、王公(?)の如き暮らしをなし、時折新京にあらわれてカフェーの美女の前で公演するを常としたがある時度が過ぎて演技中、遂にハング段からすべり落ち、したたか尻を打って、数日中動けなかったと云う話は知る人ぞ知る。(奥さんには内証)

◎尚此の会合で、此の種同期会を時々開

く事を決め楽しみの機会を多くしようとの事で例会は春秋2回とし、今回は10月と決めた。

◎同期生の皆さんに一つの提言

上記の様に吾々同期会は都合のつく範囲内で10月中に開く事にしましたが、8月1日附千曲会報に同級会やら同期会やらに関する香山清和君の提言があります。糸11回同級会も此の同期会も別に香山君に影響されたわけでは無いが、そんなことはどうでもよく、皆集まって愉快にやる事が目的なので、次回の秋10月には理窟抜きでたくさん集まって頂き度、筆者の気付かない同期生各位の心からの御連絡を切に御願い申し上げる次第であります。

(青木友弥記)

関博夫氏(蚕23回)の学位論文  
京都大学農学部教授会通過

母校養蚕学科関博夫助教授は「桑属の細胞学的研究」と題する学位請求論文を同大学に提出中のところ、7月16日付をもって教授会を通過した。

横井助教授米國留学

母校横井政時助教授はこの度アメリカ合衆国ミシガン大学の招聘により物理学研究のため留学されることになり、来る8月27日午後3時横浜港を出発される予定である。なお8月17日同先生の行を盛にするため第1会議室において学部教職員主催で送別会が催された。

会 員 動 静

頁	氏 名	回 率	新 住 所
48	荻原隆夫	糸 37	群馬蚕糸下仁田工場(群馬県甘楽郡下仁田町)
148-164	浦沢一裕	学糸 4	筑北分校(東筑摩郡麻績村)
168-151	一之瀬高房	農 1	長野県農業試験場作物部(長野市中御所363)
142-133	秋山俊之	農 4	篠ノ井保健所(篠ノ井市)
29	北沢周一	蚕 10	宮城県伊具郡丸森町
211	安井義忠	糸 6	大阪毛織株式会社(大阪市住吉区粉浜本町)
32-161	田代毅宏	糸 27	鐘淵紡織松本工場(松本市島内)
40	新井真方	学糸 6	高姫社(北安曇郡池田町)
180-74	永井正彦	学蚕 6	塩原蚕種株式会社(前橋市日口町甲472)
71	永田四郎	化 5	東京都北多摩郡狛江町和泉70の3
212-210	林利金	蚕 33	農林省蚕糸局技術改良課(東京都港区赤坂青山南町6の67農林省青苑寮)
162-155	長峰豊美	学化 2	岡畑産業株式会社大阪出張所(大阪市南区順慶町)
216-70	竹内孝三	農 1	長野市三輪田町137
145	宮崎久雄	蚕 14	農林省蚕糸試験場(東京都杉並区高円寺) 住 杉並区正保町57
133-144	中村清一	学蚕 5	株式会社柳沢精機製作所(坂城町坂城)
104-130	齋藤好次	農 3	坂城小学校(埴科郡坂城町)
208	瀬在袈裟	蚕 37	神川小学校(上田市神川)
153-182	小出直人	学化 5	大阪市阿倍野区阿倍野筋 8 の101
45-161	鈴木彦三	化 2	静岡大学教育学部(静岡市)
47	中里見友郎	蚕 26	片倉普及団蚕種製造所(松本市蚕玉町)
47-40	佐藤裕功	学蚕 1	群馬蚕糸室田工場内(群馬郡榛名町下室田)
238	樋田高久	学蚕 4	学文館教育研究所(高崎市田町39ヤマビル内)
24-95	水野孝之	農 1	農林省開東々山農業試験場(栃木県那須郡西那須野町)
57	山下忠雄	蚕 37	福岡県蚕業指導所(福岡県筑紫郡大野町)
85	有賀康人	蚕 36	新潟市NHK放送局
85	今村覚治	蚕 15	千曲社埼玉出張所(埼玉県大里郡寄居町)
86	遠藤幸夫	糸 14	株式会社斎藤運送店(横浜市中区北仲通五丁目帝蚕ビル内)
86	小笠原振一	糸 22	片倉工業株式会社神戸出張所(神戸市生田町掃磨町49取引所ビル)
86	小田切昌三	学糸 2	自営(書肆)(東京都大田区女塚 4 の18の6)
39	佐藤秀夫	糸 4	死 亡
89	西山治	化 3	住 東京都世田ヶ谷区玉川尾山町30
86	馬場武三	蚕 30	昭栄製糸小山工場(小山市)
90	堀江平利	糸 7	日本電建横浜鶴見営業所
184	丸山利十	糸 18	片倉工業株式会社本社(東京都中央区京橋 3 ノ 2 片倉ビル)
		蚕 28	門司植物防疫所(門司市西海岸通り)
		糸 36	石橋生糸株式会社沼津工場(静岡県沼津市)

# 母校だより

- 7月11日から3週間乃至40日間の予定で3年生、別科生が全国の関係 100余カ所へそれぞれ学外実習に出かけた。
- 7月18, 19の両日にわたって野球、庭球、卓球、バレー、弓道の5種目について信大教職員体育大会が長野の教育学部で開催され、繊維学部は卓球で優勝した。
- 7月31日から8月6日まで1週間にわたって高校教員の化学実験講習会が行われた。
- 8月10日から13日まで4日間高、中、小学校教員の単位修得試験が行われた受験者は130名であった。
- 8月11日米国学生11名と繊維学部学生との交歓懇談会が開催された。

## 50周年記念事業費申込

- 福島支会  
2,000円大泉英朋(織農2)
- 茨城支会  
2,000円中山鑑一(蚕3)
- 東京支会  
1,000円長谷川聖人(蚕36)  
大井 秀夫(蚕36)
- 更埴支会  
6,000円飯田儀作(紡1)  
5,000円池田俊郎(蚕21)  
2,500円瀬在 茂(化4)

- 愛知支会  
5,000円星田 馨(紡12)  
榊原鶴次郎(蚕4)  
1,000円青木茂実(学紡4) 加藤郁夫(学糸4) 池田勉(学糸6)
- 三重支会  
7,000円佐藤周一(蚕4)  
3,000円金崎真英(蚕9) 五島小太郎(糸15) 坂 求(紡9) 陶山専三(糸6)  
2,500円大田三郎(糸21)  
2,000円山本十三(糸31)  
田中泰久(蚕30)  
1,700円桜井周一(農1)  
1,400円岡本一男(蚕39) 佐藤正(蚕35) 北沢隆治(糸35) 野本昭三(糸37)  
1,000円塩沢長(学蚕2) 恵木 敏昭(糸別2)  
700円伊藤豊(学蚕5) 大井弘利(蚕別4) 谷高樹(糸別6)
- 徳島支会  
5,000円宇根山哲夫(糸17) 宮原秀人(糸19)  
4,000円香山登(蚕20)  
3,000円寺島昌(糸31)  
1,500円矢島卓也(学糸1)
- 愛媛支会  
3,000円高岸健次(化1)  
1,500円中村孟夫(糸38)  
1000円三宅恒夫(学紡2) 室賀亨(学紡2) 細田博正(学紡6)
- 北九州支会  
2,000円川村雄次郎(蚕37)

- 500円堀内米子(教18)
- 宮崎支会  
5,000円永山正秋(蚕5)
- 鹿児島支会  
3,000円岩切作次(糸22) 辻 義男(蚕24) 鈴木茂(蚕22)  
2,000円日高篤(糸34)  
小 計 113,900円  
累 計 2,295,150円

## 蒲生俊興先生退官記念資金受領

- 1000円秋山利夫(蚕24) 合田信一(糸11) 戸倉豊兵衛(蚕2) 宮本静雄(紡3) 尾藤省三(蚕10) 近藤正己(蚕3)  
600円猪坂直一(蚕6)  
500円岸勝弥(蚕3) 岡田量雄(蚕25) 西沢政人(蚕23) 山路広次(学蚕5) 若林寅雄(糸10) 齋藤義臣(蚕32) 若林茂一(蚕12) 竹内彦保(蚕32) 金井弘(蚕別2) 二本猪一(蚕8) 小林一雄(蚕別1)  
400円和田晋(糸12)  
300円香山清和(紡3) 花岡和夫(蚕専)  
250円田中茂男(蚕36)

## 倉沢美德先生退官記念資金受領

- 2,000円吉田茂(農3)  
1,000円秋山利夫(蚕24) 合田信一(糸11) 西沢政人(蚕23) 戸倉豊兵衛(蚕2) 尾藤省三(蚕10) 近藤正己(蚕3) 武田兵助(農1)  
600円猪坂直一(蚕6)  
500円岸勝弥(蚕3) 岡田量雄(蚕25) 山路広次(学蚕5) 若林寅雄(糸10) 齋藤義臣(蚕32) 若林茂一(蚕12) 竹内彦保(蚕32) 金井弘(蚕別2) 二本猪一(蚕8) 小林一雄(蚕別1)  
400円和田晋(糸12)  
300円香山清和(紡3)  
250円田中茂男(蚕36)

## 本 会 日 誌

- 7月18日富山県の支会結成準備幹事会に本会より野口理事長出席。
- 7月19日岐阜支会再建促進懇談会に野口理事長出席。
- 7月21日富山支会長谷川敏文氏来館。
- 7月27日上小支会永田利久氏(亀山製糸上田出張所)来館三重支会よりの会費、50周年記念事業募金納入。
- 7月30日蒲生倉沢両先生退官記念資金発起人会開催。
- 8月1日千葉支会懇談会に町田理事出席。
- 8月3日母校会議室に上小支会総会開催学内会員も出席。
- 8月4日名簿編集委員会開催。
- 8月6日群馬支会若林寅雄氏(昭栄製糸重役)来訪。
- 8月7日東京支会尾藤省三氏(農林省蚕糸試験場)来学部来訪。

- 8月8日会報編集委員会開催。
- 8月9日群馬支会総会に荻原理事出席
- 8月10日蒲生・倉沢両教授退官記念品贈呈式を発起人会主催にて母校会議室に開催。

## = 編 集 後 記 =

- 編集理事 田口 亮平 白井 美明  
編集顧問 小山 長雄  
編集部員 三石 賢 一之瀬匡典  
矢彦沢清允 篠原 昭  
降旗 剛寛 白井 要範

第7号台風の被害については各位より早速御見舞状を賜り厚く御礼申し上げます。幸い本学部の被害は軽少で小破、風倒樹があった程度でありますが大室農場は施設果樹等大被害があり日下復旧中でありますから御安心下さい。

特許・実用新案  
意匠・商標  
出願・審判・訴訟代理

濱 特 許 事 務 所  
弁 理 士 浜 香 三

事務所 東京都千代田区麹町三丁目一番地  
大野 晋 特 許 事 務 所 内  
電話(二〇)一四四四番

自宅 むぎしの市緑町 公団住宅七の三〇二